

# ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～  
vol. 36

2022年5月26日

## 子どもシェルター全国ネットワーク会議 2021 に参加して

子どもシェルター全国ネットワーク会議2021が、2022年3月26日に開催されました。コロナ感染流行のため2年連続でZOOM会議の形式で行われましたが、全国20の団体とシェルター設立の準備を進めている4団体の役員、職員及び子ども担当弁護士など187名の方が参加して熱心な議論が交わされました。

会議は、全体会と運営、子ども担当、職員、自立援助ホームの4つの分科会という内容で行われました。

全体会では、これからシェルターを立ち上げようとしている団体への支援、子どもシェルターのための第三者評価の在り方や評価機関についての全国ネットワーク会議での議論状況の報告、一時保護の司法審査導入という児童福祉法改正の動きに対する対応の報告などが行われました。なお、厚労省子ども家庭局の方から国として社会的養護に対する予算措置や児童福祉法改正などについての行政説明が予定されていましたが、別の機会に時間をとって行うことになり、別途2022年4月10日に行われ、施設を退居する直前の一人暮らしを経験する場の確保や支援コーディネーターについても自立生活支援事業を拡充することなどの説明がありました。

また、私が参加した運営者の分科会では、コロナ感染流行などシェルター運営にあたっての危機管理の在り方や入居している子のための苦情処理委員会といった仕組み、アフターケアの取り組みなどのテーマについて、各団体の取り組みや実情を報告し合い、他の団体の悩みに共感すると共に今後の施設運営の参考となることもあり、有意義な意見交換が行われました。

昼休憩の時間に、今回の会議の運営を担当した千葉・帆希のシェルターや自立援助ホームの施設や支援の在り方について映像での紹介があり、シェルターの建物が住環境や人の動線に配慮されており、とても参考になりました。

全国で同じ思いで同じような苦労をしながら活動をすすめている他の団体の皆さんから次の1年に向かって大きなエネルギーをもらった1日となりました。

2022年度は神奈川の子どもセンターてんぽの担当で、今のところ横浜に集い合って開催される予定となっています。横浜にはまた多くのメンバーと参加したいと考えております。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

理事長 鵜野 一郎

## 第12回ボランティアスタッフ養成講座のご案内

本年6月8日から7月28日にかけて第12回ボランティアスタッフ養成講座を開催します。

当センターでは、子どもシェルター「ピピオの家」と自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにご協力をいただいています。

ボランティアスタッフに応募される方にはこの養成講座（全8講）を受講していただくこととしていますので、別紙の募集案内をご覧ください。

この講座は、公益財団法人マツダ財団との共同事業であるスタートラインプロジェクトの一環として開催しており、子どもの問題に関心の

ある方にも参加を呼びかけるとともに、現在のボランティアスタッフや子ども担当弁護士として関わっている方のスキルアップも目的としています。

広島弁護士会館での開催を予定していますが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはZoomを利用したオンラインに切り替えることとしています。

皆様の応募をお待ちしておりますので、よろしくお願いたします。

ピピオ子どもセンター事務局

## 2021年度 「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者の概要

	ピピオの家（女子）	はばたけ荘（男子）
2021年度中に入居者数	12名	5名
うち2020年度からの継続	1名	4名
うち2021年度中の新規入居	11名	1名
入居時の年齢	13歳 1名 16歳 1名 17歳 3名 18歳 4名 19歳 2名	17歳 1名
2021年度中の退居者数	11名	2名
入居期間	半月以内 2名 半月～1か月 4名 1か月～2か月 3名 2か月～3か月 2名	1年3か月 1名 2年11か月 1名
退居後の行き先	親のもとへ 1名 親戚宅へ 4名 自立援助ホーム 5名 シェアハウス 1名	アパートで一人暮らし 1名 その他施設 1名

## スタッフ通信

ピピオの家スタッフのTです。

今回は、入居者と生活をする中で考えさせられたことについてお話しします。

ピピオの家では、入居者一人ひとりに、ベッドや机、椅子等を備えた居室を用意しています。内側から鍵をかけられる構造になっており、入

居者本人が許可した場合や、安全確認をする必要がある場合等を除いて、他の入居者やスタッフ等が居室に入ったり、外側から鍵を開けたりすることはありません。

入居者の中には、他者が勝手に居室を開けたり、入室したりすることに対して嫌悪感を抱いている人がいます。みなさんの中にも、同じよ

うに感じる方がいらっしゃるのではないでしょう  
か。理由はそれぞれありますが、家庭や施設  
等で生活をしてきた頃、自室に他者が入ってき  
たことでトラブルになったり、嫌な思いをし  
たりした経験によって、そのような嫌悪感を抱  
くようになったと、話してくれる入居者もいま  
す。

Aさんもその一人でした。

過去の経験から、他者が居室に入ることに  
対して嫌悪感や不安感を抱いていたAさんは、  
鍵をかけて就寝していました。また、精神的に  
不安定になった際にも同じように鍵をかけ、  
子ども担当 弁護士やスタッフ等の声がけに  
応答してくれない こともありました。

ある日の夜、Aさんがスタッフに対して「部  
屋の鍵をかけてないから、朝は（扉を）開  
けて 起こしていいよ」と、初めて伝えて  
きました。それ以降、Aさんは精神的に不安  
定になった際に居室に鍵をかけることはあり  
ましたが、就寝時は扉を10cm程度開けた  
ままにすることが増えました。

その理由についてAさんは、早起きの練習  
をするために目覚まし時計を起床時間よりも  
早く 設定した上で、スタッフ等の物音で目  
が覚める ように扉を開けていることを教  
えてくれました。

それまで嫌悪感や不安感から自身を守るた  
めに 鍵をかけて眠っていたAさんが、鍵を  
かけず、 しかも扉を開けて就寝するよう  
になったことに 驚いたと同時に、入居者  
の言動の背景を考える 大切さについて改  
めて考えることができました。

入居者は、「ピピオの家」という初めて訪  
れた 知らない場所で、知らない人たちと  
の共同生活を 始めます。知らないもので  
溢れる「ピピオの家」の中  
で、唯一居室は愛着のある私物が目に留  
まる 場所です。入居してから時間が経  
つにつれ、私物等 をリビングに置いたま  
まにする入居者がいます。片付けること  
が面倒だったり、「置いたままにして  
おいてね」というメッセージだつたり…。  
しかし 裏を返せば、“きちんとしなければ”  
という入居当 初の緊張が解け、“置いた  
ままでも大丈夫だろう”と、「ピピオの家」  
での生活に安心感を覚えてくれた上での  
行動なのかもしれません。

周囲に気を遣いながら生活してくれる入  
居者が 多くいますが、やはり不安定な心  
情を抱えている ため、居室でひとり涙を  
流す こともあるようです。入居者の言  
動や、言葉として表れていない思いと  
向き合い、安心して生活できる環境を  
作って いくよう、一層励んでまいりま  
すので、御指導ご鞭撻のほど宜しくお  
願い致します。

はばたけ荘スタッフのOです。

今年度4月からスタッフとして勤務をは  
じめ、 執筆時点でちょうど1か月になり  
ます。入居し ている子どもたちとも、少  
しずつではあります が打ち解けてきた  
ように 思います。

はばたけ荘は自立援助ホームですが、実  
際に 勤務し子どもたちと関わってい  
く中で 自立とは何なのかを考えること  
が多くなりました。

働き始める前の私感では、「自分の衣食  
住を 賄える経済力があれば自立したとい  
えるかな」程度に 思っていました。

しかし、お金が十分に稼げたとしても  
すぐ  
に 遊んで使い果たしてしまい、寮費を  
払うのが ギリギリになってしまう、自  
身の健康を 損なうほど 部屋を汚して  
しまう。となると胸を張って自立し  
ているとは 言い難い感覚になりますね。

一言で自立といっても様々な側面がある  
ことを 改めて実感した次第ですし、では  
既に自立し ている大人たちは上記のよ  
うなことを 含めそつなくこなせるのか  
、と 言われたら少なくとも私の交友  
関係 ではないと思います。

そんな時は できないことを誰かに頼  
ることで、 解決したりします。一人で  
こなすこと が難しい時は 周りの人に  
「助けて」と、 声を上げる事も自立  
の 重要な要素だと考えられます。

そうして 様々な自立の面をはばたけ  
荘では 支援して いくことになりま  
すが、 子どもたちには 選択する  
機会を なるべく多く作ってあげたい  
と 思っています。

はばたけ荘の子どもたちは 不条理な  
状況や 環境の中 やってくる子もい  
るので、 時折会話の中で 諦めの  
言葉が 出てくる ことがあります、ど  
こか自分

の事を他人事のように話す子もいます。自分の人生をコントロールしている感覚が少ないように見えますし、実際コントロールしてきた経験は少ないのかもしれませんが。

社会で生きていくと思うようにいかないことが起きることも、不条理なことにも直面しますが、そんな時に子どもたちが「どう思い、考えて行動するかは自分で選ぶことができる。」という価値観を少しでも持って向き合う事ができたら私個人と

して嬉しく思います。そのためにも、独りよがりの支援ではなく子どもたちが発する「〇〇したい」という表現を聞き逃さないように観察し、安心して言えるような環境を作っていく必要があります。

スタッフとして働き始めて間もなく至らないことが多いですが、子どもたちと過ごしていく中で一緒に成長し、はばたけ荘が安心して自立に向かえる場所であるよう取り組んでいきます。

## ピピオ掲示板

### 共同募金・社会課題解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました

ひなばと vol. 35 でご案内しました2022年1月から3月末日までに行われた広島県共同募金会による社会課題解決プロジェクトに対し、多数の方々にご協力頂きました。112件もの募金を頂戴し、広島県共同募金会を通じて、159万1253円の配分金をいただくことになりました。

今年も新型コロナウイルスの影響により街頭募金を中止するなど募金活動への影響はありましたが、それにもかかわらず、多くの皆様のご協力をいただいております。ピピオの活動に対する大きな期待を感じております。

いただいた配分金は、「ピピオの家」、「はばたけ荘」に入居する子どもたちの自立に向け、有効に活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

### 寄付等のご協力ありがとうございました

高橋様、山本様、向田様から寄付金を頂いております。日々の子どもの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局  
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル 505号  
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659  
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>